

日本らしい木組み技術による大型建築

## 木造建築の復権と展望



三井所 清典 氏

(木のまち・木のいえ推進フォーラム幹事  
日本建築士会連合会 副会長・(株)アルセッド建築研究所 所長)

木造建築は焼失したり、破壊されやすいため、争いの多い地域では石造建築に変わってきたというのが歴史の実情だと思えます。従って海に守られた日本の木造建築は、言わば平和の象徴であると言えることができます。しかしその日本でも太平洋戦争の焼夷弾による住宅や都市の焼失、その後の都市火災や風水害によって、建築と都市の不燃化が推進され、戦争の準備体制に入った昭和12年頃から50年頃まで大型の木造建築がばたきと止まってしまいました。

ようやく昭和50年代の半ばになって、東大で木造の研究が復活し、国の施策としても公共建築を木で造る動きが出てきました。そして今、木造建築は新しい時代を迎えています。木材を建築に利用することは、炭酸ガスがストックされるという気候変動防止と、循環型社会への転換、地場産業振興という意味があります。そういう意味でも、公共建築物等における木材の利用促進に関する法律ができたわけです。小さな工務店が木造住宅を作りながら継承してきた木組みなどの大工技術、集材材をはじめとする新たな技術の開発により、ポルトによる接合といった欧米式の木造だけではなく、日本らしい木の使い方、木造と人間の生活文化という関係を踏まえて、林業の活性化と日本らしい木造建築が展開できればと願っております。関係者の皆さま、共々頑張りましょう。



佐賀県神埼市立神埼小学校講堂建設風景 (1935年)



千葉県ふるさと館展示棟 (1989年)  
引張りポルトによる接合



群馬県林業機械化センターの展示棟 (1996~2000年)  
ポルトを使わずすべて地元大工による木組み



宮崎県木材利用技術センター (2001年)

材積量を増やす本格的木造住宅への取り組み

## 木造化建築の新たな挑戦



竹下 輝和 氏

(九州大学大学院 人間環境学研究院 教授)

木による新たな挑戦という私の主旨は、非常に単純明快で、本格的な木造建築を作りたい。木造建築をさらに木造化させ、とにかく多くの木を使ったものにしたという事です。そのひとつとして板倉構法があると思いますが、材積量は約2・0㎡/坪です。これに対し、在来軸組はだいたい0・6㎡/坪と非常に少ないわけです。これを少なくとも1・5㎡/坪ぐらいたまには高めたという事です。

ケースの1は56坪の家ですが、坪当たり1・55㎡は使ったプロジェクトです。ケース2は、やや少なめの坪当たり0・95㎡の数を使っています。法的には在来構法を主軸としながら、壁を柱材でパネル化して仕上げることで、板倉構法的に材積を増やす取り組みです。通称、たてログと言いますが、ログハウスといわれる在来構法を結びつけていくハイブリッド的なものだと考えています。また、今後の取り組みのひとつとして、今まで、木造住宅はグリッド構成でデザインをしてきましたが、これを発展させて、角材が持つモジュールの豊かさで、壁ラインを決めていけば新しいデザインの可能性があるだろうと思っております。また、混構造でコンクリートスラブが木スラブのパネル化によって出来れば、新たな展開も出てくると考えています。



多材積木造建築ケース1: 柿林の家 (2005年)  
●材積 1.55㎡/坪 木造2階建て  
敷地面積532.48㎡ 建築面積155.50㎡  
延床面積184.15㎡



多材積木造建築ケース2: 響きの家 (2008年)  
●材積 0.95㎡/坪 木造2階建て  
敷地面積245.21㎡ 建築面積57.97㎡  
延床面積106.00㎡



## 第12回 木のまち・木のいえ リレーフォーラム

# in ふくおか

FUKUOKA - 2011.10.29 SAT

平成23年10月29日(土) パピヨン24 ガスホール

主催：一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

後援：林野庁 国土交通省 福岡県 福岡市 九州大学 社団法人 福岡県建築士会 社団法人 福岡県建築士事務所協会  
社団法人 日本建築家協会 九州支部 社団法人 福岡県木材組合連合会 木のまち・木のいえ推進フォーラム



### プログラム

#### ■基調講演1

#### 木造建築の復権と展望

三井所 清典 氏 (木のまち・木のいえ推進フォーラム幹事)

日本建築士会連合会 副会長・株式会社アルセッド建築研究所 所長

#### ■基調講演2

#### 木造化建築の新たな挑戦

竹下 輝和 氏 (九州大学大学院 人間環境学研究院 教授)

#### ■講演

#### 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」について

赤羽 元 氏 (林野庁林政部木材産業課 課長補佐)

#### ■パネルディスカッション

#### テーマ◎人を惹きつける木のデザインとは

コーディネーター 安藤 直人 氏 (木のまち・木のいえ推進フォーラム幹事)

東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授)

パネラー 日高 淳一 氏 (九州旅客鉄道株式会社 取締役 鉄道事業本部 副本部長 運輸部長)

中村 展章 氏 (株式会社 中村製材所 代表取締役)

阪根 宏彦 氏 (有限会社 阪根宏彦計画設計事務所 代表)

